

ノーサイド

北原 巖 男

で無事に済む可能性が非常に高い」
「繰り返すが、感謝の気持ちを伝えて、受け入れなさい」
「感謝しなければならぬ」
「あなたは感謝の態度を示していない。それは良くない」

「2025年3月2日付、日本経済新聞「米ウクライナ首脳会談 主なやり取り」より筆者抜粋」
2月28日、ホワイトハウスのトランプ米大統領とウクライナのゼレンスキー大統領の首脳会談冒頭、報道陣の前で行われたパンス、米副大統領を含めた激しい口論。大変な衝撃を以て世界中に放映されました。本紙読者の皆さんは、どうし、機会あるたびに、感謝

う受け止めたでしょうか。首脳会談決裂を受けて、トランプ大統領は、あろうことか、ウクライナへの軍事支援・情報活動支援の停止を命じたとのこと。ウクライナに対する脅迫行動と、ライナに対する脅迫行動と、言っても過言ではありません。それは良くない」
2022年2月、大國ロシアが突如、特別軍事作戦と称してウクライナを侵略してから早や3年。米国は、ロシアの力による一方的な現状変更の野望を厳しく非難し、その撤収を求めると共に、ウクライナに対する最大の支援国として、一貫して同国を支え続けて来ます。ゼレンスキー大統領は、我が国固有の領土であり、我が国固有の領土である南シベリア諸島、更に「安全の保障」をめぐるトランプ大統領との対立が指摘されています。

感謝

「大統領に感謝すべきだ」
「あなたがやっていることは、米国に対して非常に失礼だ」
「感謝の気持ちを一度でも伝えたいことがあるか」
「この会談で言ったか」
「トランプ大統領に感謝しなさい。あなたの国を救おうとしているのだ」
「あなたは我々のおかげ

表明を行って来ています。冒頭の首脳会談でも、ゼレンスキー大統領は、きちんと感謝されています。正に、今日のウクライナは、明日のアジアとの危機感を抱かざるを得ません。トランプ大統領に対し、支援停止命令の速やかな解除を求める以外の選択肢は、ゼレンスキー大統領にも私達にも無いのです。そのための、両大統領の真の関係修復は、一刻の猶りもありません。

ここで我が国周辺に目を転じますと、ロシアのような、民主主義国家米国のあるまじき常軌を逸したものが言わざるを得ません。まるで首脳会談冒頭に「安全の保障」をめぐるトランプ大統領との対立が指摘されています。

ウクライナ国民は、停戦と努力への行動を踏まえながら、相互に緊密に調整し、協会の会長、(公社)隊友

北原 巖男(きたはらい わお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社)隊友

米国の大國としての関与しているのです。そのため、米国が関与する形でのウクライナの「安全の保障」を求めているのです。至極もっとなことです。

しかし、トランプ大統領は、これまで本件についてコミットしていません。むしろ、米国ではなく欧州が担うべきだとの考えに立っています。

どうこれを調整して行くか。欧州と米国との間に、不協和音や亀裂を生じさせるようなことがあってはなりません。そのような事態は、プーチン大統領を利用する以外の何物でもありません。欧州諸国の一段の結束と努力への行動を踏まえながら、相互に緊密に調整し、協会の会長、(公社)隊友

米国の動向をただ見守っているだけではなく、唯一のものではない。トランプ大統領は、プーチン大統領にすり寄り、米国の動向をただ見守っているだけではない。唯

米国の動向をただ見守っているだけではない。唯